第６学年　国語科学習指導案

指導者　　糸　坪　伸　宏

Ⅰ　**単元名**　　登場人物の関係をとらえ，物語を深く読もう
　学習材　「海の命」（光村図書６年）

Ⅱ　単元の指導構想

１　単元について

○　第５学年及び第６学年の「思考力，判断力，表現力等」の目標は，「筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い，日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げることができるようにする」ことである。「読むこと」の学習を通してこの目標に迫るためには，多様な文章に対応し，文章全体の構成から要旨を捉えたり，複数の叙述などを基に物語の全体像を捉えたりするための様々な読み方を身に付けるとともに，文章を読んで考えたことをまとめたり，共有することを通して広げたりする力が必要である。

これまで子どもたちは，「読むこと」の文学的な文章について，「カレーライス」において，登場人物の行動，会話，心内語などの叙述に着目して中心人物の心情を捉えたり，登場人物の行動を自分と比べながら読むことで内容の理解を深めたりする学習を行ってきた。また，自己の学びを自覚することについては，物語の内容だけでなく，読み方や学び方を意識して学んだり，振り返ったりすることができるように学習を進めてきた。

これらの学習を通して，子どもたちは，描写を基に登場人物の心情を捉えたり，身に付けた読み方を生かして読んだりすることができるようになってきている。今後は，登場人物の相互関係を捉えたり，複数の叙述などを基に物語の全体像を捉えたりする力を身に付けるとともに，授業で身に付けた読み方を自覚して日常的な読書において進んで生かそうとする態度を養っていく必要がある。

○　本単元では，「海の命」を読むことを通して，「登場人物の相互関係について，描写を基に捉えること」と「物語の全体像を具体的に想像すること」を主なねらいとしている。

「海の命」は，海を舞台に中心人物である太一の成長する姿が六つの場面構成で描かれた物語である。場面展開のはっきりした構成であり，物語の全体像を想像しやすい作品である。また，作品には，太一の生き方に影響を与える人物が複数登場する。彼らの言動から心情を想像するとともに，人物の相互関係を捉えることができる学習材である。

設定した言語活動は，「物語を深く読んで，その内容を説明すること」である。その特徴は，子どもたちが初発の段階で感じた様々な疑問について，協働的な学習を通して読み深め，明らかになった内容やそのような理解に至った読みの過程を自覚化し，説明することである。学習材である「海の命」には，一読しただけでは，理解することが難しい表現や太一の言動があり，このような言語活動を行うことで，子どもたちは，学習材に正面から向き合い，じっくりと読み，これまで身に付けた資質・能力を発揮して学習を進めることができると考える。

したがって，子どもの実態と身に付けたい力から判断し，本学習材は適材である。

○　指導にあたっては，次の二点に留意する。

一点目は，本単元で働かせる言葉による見方・考え方を単元計画の中に位置付けることである。登場人物の相互関係や物語の全体像を捉えるために，どのように言葉による見方・考え方を働かせればよいのかを明らかにし，その具体的な姿として，どの叙述に着目して何を考えることができればよいのか，子どもの思考に沿って捉え，単元を構想する。

また，これまでの学習で習った読み方を掲示したり，授業の見通しや振り返りの段階で，意図的に言葉による見方・考え方にふれたりすることで，子どもが読み方や学び方を意識し，主体的に言葉による見方・考え方を働かせようとする学習の態度が養われると考える。

二点目は，自分自身の学びを自覚することができるように，振り返りの方法や場を柔軟に設定することである。自己の学びを自覚する場面を単元計画や単位時間の指導過程の中で固定せず，常に学びの自覚を促し，ノートにはいつでも自覚につながるメモを記してよいこととし，学習の状況に応じて振り返りの場を適宜設定していく。その際，自覚するための学習方法の見通しや学習課題が解決した時の思考過程の振り返りを大事にすることで，身に付けたい力の確実な定着につながるとともに，付けた力を自ら使い，課題を解決していこうとする意欲が高まると考える。

２　復興教育（３つの教育的価値）との関連

○　いきる「①かけがえのない生命」とのかかわり

「海の命」は，中心人物である太一に影響を与えた三人の登場人物が，それぞれに命についての考えをもっており，それらの考え方にふれることで太一は成長し，最終的には海の命を大切にする漁師になる物語である。この物語の学習を通して，命の大切さを考えることができるようにする。

○　いきる「②自然との共生」とのかかわり

物語の中に，「海のめぐみだからなあ。」「千びきいるうち一ぴきをつれば，ずっとこの海で生きていけるよ。」という表現があり，自然の恵みに感謝したり，海に対して畏敬の念をもったりする登場人物の考え方を通して，自然と共に生きることにふれるようにする。

○　かかわる「⑧家族のきずな」とのかかわり

太一がクエを打たなかったことにより，結果として太一は命を落とすこともなく，その母親も穏やかで満ち足りた老後を過ごすことができた。母親の考えを想像することで，家族の大切さを考えるようにする。

Ⅲ　単元の指導計画

1　単元の目標

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
①　言葉には，使い方によって美しさや柔らかさなどの広がりのある表現があることに気付く。（1）オ	②　登場人物の行動や会話，様子を表す叙述に着目して，登場人物の相互関係を捉えることができる。　C（1）イ ③　登場人物や場面設定，個々の叙述を基に，作品の世界を豊かに想像することで，物語の全体像を捉えることができる。　C（1）エ	④　これまで身に付けてきた読み方を使い，進んで物語を読み，考えたことを伝え合う。

2　学びのつながり

○　中学年では，登場人物の行動や会話を基に気持ちを捉えたり，場面の移り変わりと結び付けて登場人物の気持ちの変化を具体的に想像したりする学習を行ってきた。第５学年では，「大造じいさんとガン」で情景描写から人物の心情を想像したり，「わらぐつの中の神様」で物語の特色を捉えたりする力を身に付けてきた。

○　本単元では，登場人物の相互関係を捉えるために，人物の行動や会話，様子を表す叙述に着目して読むことができるようにする。また，物語の山場で中心人物の心情の変化を読み取り，物語の全体像を捉えるために，登場人物の相互関係や物語の展開に着目して読むことができるように学習を展開していく。

○　本単元で身に付けた「物語の全体像を捉える力」は，次の文学的な文章の「やまなし」の学習において，表現が読み手に与える効果について考える力につながっていく。さらには，日常的な読書においても，あらゆる物語を読む際に発揮され，中学校第１学年の「内容を解釈する力」につながっていく。

3　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　海に関係する様々な叙述や太一の心情を表す描写を読み，多様な表現があることを理解している。	②　登場人物の行動や会話，様子を表す叙述に着目して，太一と太一の考え方に影響を与えた人物の相互関係を捉えている。 ③　海の命の大切さが，三人の登場人物と太一との関係と山場の出来事を通して描かれていることを捉えている。	④　描写や展開に着目した読み方を使って，進んで「海の命」を読み，学習課題について考えたことを伝え合っている。

4　単元の指導構想と評価の計画（全６時間）

次	時	学習活動　**働かせる見方・考え方**	◆研究にかかわる手立て	◇評価規準及び[評価方法]
一	1	・　「海の命」を読み，初発の感想を書く。 ・　疑問点を出し合い，学習計画を立てる。 登場人物の関係をとらえ，物語を深く読もう。	◆　これまでの物語で身に付けてきた読み方を振り返り，学習の見通しをもつ。 **【学びの目的・見通し】**	◇　叙述に着目する読み方を進んで挙げている。 【評価④】[ノート，発言]
二	2	・　父と母の考え方と太一との相互関係を考える。 **登場人物の考え方を捉えるために着目する観点を選ぶ。**	◆　既習の読み方から自分で選択し，使えるようにする。 **【言語活動】**	◇　父と母の考え方と太一との関係性を読み取っている。 【評価②】[ノート・発言]
	3	・　与吉じいさの考え方と太一との相互関係を考える。 **登場人物の考え方を捉えるために着目する観点を選ぶ。**	◆　活用した読み方がどのような読みにつながったのかを振り返る。 **【学習の成果と課題】**	◇　与吉じいさの考え方と太一との関係性を読み取っている。 【評価②】[ノート・発言]
	4 本時	・　太一は，なぜ，クエを打たなかったのかを考える。 **太一から見たそれぞれの人物像と結び付けて読む。**	◆　人物の相互関係において読むことができるようにする。 **【学習の見通し・言語活動】**	◇　山場での太一の心情の変化を人物の相互関係から考えている。 【評価③】[ノート・発言]
	5	・　太一は，なぜ，クエのことを生涯誰にも話さなかったのかを考える。 **繰り返し出てくる表現や物語の展開を踏まえて読む。**	◆　深く読むことができた理由を考え，本時の学習の見通しをもつ。 **【学習の価値・見通し】**	◇　太一の行動の根拠を人物の相互関係や物語の展開から考えている。 【評価③】[ノート・発言] ◇　多様な表現があることを理解している。 【評価①】[ノート]
三	6	・　自分の読みの深まりを説明する。 ・　学習の振り返りをする。	◆　初発の感想を引用することで読みの深まりを実感できるようにする。 **【学習したことの波及・発展】**	◇　学習を通して身に付けた力を今後の学習に生かそうとしている。 【評価④】[ノート]

Ⅳ　本時の指導計画

１　目標

○　太一の心情の変化の理由を，太一に影響を与えた人物との関係から考えることができる。

２　評価規準

・　太一がクエを打たなかった理由を，与吉じいさ，父，母の命に対する考え方を基に考え，自分の考えをノートに書いたり，友達に話したりして説明している。　【思考・判断・表現③】

＜努力を要する状況の子どもへの手立て＞

・　最初の場面設定（父はクエを獲ろうとして亡くなったこと）と結び付けて，太一がクエを打たなかった理由について考えをもつことができるようにする。

３　展開

段階	時間	学習活動 □発問	○期待する子どもの姿	◆研究にかかわる手立て	・留意点 ◇評価
導入	2	１　前時想起 □　前時の課題を解決できたのは，どのような読み方をしたからですか。	○　人物の行動，会話文，様子に着目することで与吉じいさの考えがよく分かった。	◆　前時課題が解決できた理由を問うことによる有効な読み方の想起	・　学習計画と合わせて既習の読み方の掲示を活用する。
	3	２　学習課題の確認 太一は，なぜ，クエを打たなかったのだろうか。			・　全文掲示を見て，場面の構成を確認する。
展開	3	３　課題解決の見通し □　課題を解決するには，どのような読み方をすればよいですか。	○　太一の行動，会話，様子に着目する。 ○　人物同士の関係性に着目して読みたい。	◆　課題解決に必要な読み方を問うことによる，本時働かせる言葉による見方・考え方の意識化	・　学習方法や学習形態についての考えも取り上げ，価値付ける。
	3	４　課題の解決 （１）学習場面の音読	○（表現に込められた意味を理解するように言葉を丁寧に読む。）	◆　見通しで出された読み方をするための音読	・　五の場面のみ一斉読をする。
	9	（２）自己学習	○（全文プリントの太一に関する描写にサイドラインを引いたり，自分の考えをノートに書いたりする。）	◆　見通しの段階で出された学び方への柔軟な対応 （例）グループ学習 （例）思考ツール	・　考えをもてないでいる子どもに対しては，最初の場面設定と結び付けて考えるように促す。
	18	（３）読み深め合い □　本当にクエをおとうだと思ったのでしょうか。 □　なぜ，クエを海の命だと思えたのでしょう。 □　太一の行動に影響を与えたのは，誰のどんな考え方でしょう。	○　クエを父と思えたから。 ○　クエを海の命だと思えたから。 ○　父を破ったクエの穏やかな目が父に似ていたから。 ○　クエは瀬の主で，この海の象徴的存在だから。生態系の頂点。 **○　与吉じいさだと思う。「千匹に一匹でいい」必要以上の魚を獲らないという考え方。** **○　母だと思う。太一が生きたことで「満ち足りた美しいおばあさん」と書いてある。**	←叙述に即した読み ←叙述に即した読み ◆　父の人物像と重ねた読み ◆　複数の叙述を基に深まった読み **◆　与吉じいさの考え方と関係付けて深まった読み** **◆　母の考え方と関係付けて深まった読み**	・　個々の読みに対する互いの疑問や教師からの発問を切り口に読みが深まるようにする。 ◇　太一に影響を与えた人物の考え方から，クエを打たなかった理由を書いたり，話したりしている。〔ノート，発言〕
終末	6	５　本時学習のまとめ （１）振り返り □　なぜ，読みが深まったのでしょうか。	○　太一がクエを打たなかったのは，与吉じいさの教えを守ったからだと分かりました。　（内容面） ○　行動や会話だけではなく，人物の関係に着目することでよく理解できた。（方法面）	◆　内容面と方法面，次時への見通しの三点での振り返り ◆　板書や掲示を使って，子どもたちが自分たちの学びを自覚できるような振り返りと，教師による学び方の評価	・　読み方と合わせて，協働的な学び方の良さについても，子どもの振り返りを取り上げながら価値付ける。
	1	（２）次時の見通し	○　次は，人物の関係にも着目して読みたい。	◆　本時で学んだ読み方の次時への意欲付け	・　学習計画で確認する。